

精神障害労災 初の千件

24年度 カスハラ原因目立つ

厚労省調べ

厚生労働省は25日、仕事によるストレスが原因で精神障害を発症し、2024年度に労災認定を受けたのは本県5件を含む1055件(前年度比172件増)だったと発表した。6年連

続で過去最多となり、初めて千件を超えた。このうち自殺や自殺未遂に至ったのは本県2件を合わせ88件(同9件増)。原因別では、初めて通年で集計したカス

ハラが108件で、全体で3番目の多さだった。原因別の最多は「パワハラ」224件、次いで「仕事内容・仕事量の大きな変化」119件。カスハラは23年度から原因項目に追加

され、7カ月分で52件だったが、通年の今回は、セクハラ、105件を上回った。今回の108件中78件が女性だった。

年齢別では、40代283件、30代245件、20代2

43件と続く。業種別では「医療、福祉」270件が最も多かった。請求件数についても3780件(同205件増)で過去最多となった。厚労省の担当者は「会社内の人間関係、環境の変化に強いストレスを抱えている労働者が一定数いる。検証・分析が必要だ」と見解を述べた。

厚労省は、過重労働による脳・心臓疾患の労災認定件数も発表し、24年度は241件(同25件増)となった。死亡は67件(同9件増)。業種別では「運輸、郵便」88件が最も多かった。

